

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

- 本校は、平成23年度に統合新校として開校した。開校より、ユネスコスクールとして登録されている。教育目標を「実行する子」「思いやりのある子」「健康な子」とし、学校経営方針に基づき、特色ある教育活動にESDを位置付けて、教育課程を編成している。
- 開校以来、校内研究としてESDに取り組み、平成28年度で6年目となる。
- 校庭西側斜面に広がる役7100㎡の学校林での学び、校地内の花壇・畑で栽培活動から始める食育、地域連携・地域貢献の3つの柱で単元開発を行い、毎年ESDカレンダーの改善を重ねている。
- 平成28年度は、研究主題「かかわり、つながりを大切にし、考え実行する子どもの育成」のもと、副主題「ESDを生かし、児童の主体的な活動を支えるファシリテーターとしての指導の工夫」を設定し、総合的な学習の時間・生活科を核として児童の主体的・協働的・探究的な学びを追究した。
- 学校林の中で児童の主体的な活動が充実するための鍵となるのが、教室内的での取組である。そこでは確実に「考える力」「生きる力」が伸びている。課題の発見と解決に向けて主体的・協働的・探究的に学ぶ授業、仲間と考えをまとめてより深い理解や新しい学びの価値を創造する授業があるからこそ、学校林に入っていく児童には力強い目的意識があり、真剣に取り組むことができている。
- 主な学習活動（通年／一部抜粋）

学年	学習内容
全体	<ul style="list-style-type: none"> ■届けよう服のチカラプロジェクト（児童会活動） 6月：出前授業「服のチカラとは」「難民について」 10月～11月：子どもの服-6の回収活動（2400枚以上） ■通年：エコキャップ・資源回収（児童会活動） ■10月：コロンビア共和国大使館の方々と交流会（4～6年） ■11月：学習発表会 2月：交流型学習発表会ミニとよばあく（全学年児童が年間の教科横断的・総合的な学びの成果を発信） ■11月：豊ヶ丘自然学校（学校林ビバーク）（3～6年課外活動） ■通年：学校林整備作業（課外活動） ■12月：「エコプロダクツ2016」ブース発表（4～6年）
第1学年	■「夏となかよし」生活科（8時間）他
第2学年	■「大好き！ぼくらのくらす町」生活科（41時間）他
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ■「地いきとつながろう」（70時間） （1学期）地いき発見 貝取・豊ヶ丘（23時間） （2学期）自分たちにできることをしよう（33時間） （3学期）みんなと地域をつなげよう（14時間）
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ■「地球、自然（資源）、人を守るために自分たちにできることを」（70時間） （1学期）地球、自然（資源）、人を守るために～水～（25時間）

	<p>(2学期) 地球、自然(資源)、人を守るために～人～ (25時間)</p> <p>(3学期) 自分たちにできることを伝えよう (20時間)</p> <p>■グリーンカーテン・堆肥作り</p>
第5学年	<p>■「伝えよう～豊小の魅力～」</p> <p>(1学期) 学校林の魅力 再発見! (25時間)</p> <p>(2学期) 伝えるためによりよくしよう 伝えるために工夫しよう (25時間)</p> <p>(3学期) 自分たちの活動をつなげよう、広げよう (20時間)</p> <p>■「一粒が千粒に(米作り)」・「多摩そば作り(麦栽培)」</p>
第6学年	<p>■「未来につなぐ学校林プロジェクト part2～つなぐ～」 (70時間)</p> <p>(1学期) 未来につなぐために学校林の活動を考えようⅠ (30時間)</p> <p>(2学期) 未来につなぐために学校林の活動を考えようⅡ (20時間)</p> <p>(3学期) 未来につなぐために学校林の活動を考えようⅢ (20時間)</p> <p>■「多摩そば作り(麦栽培)」</p>

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 児童会活動 ）